

明治十六年十月

在韓元山津税関に於て我商船より噸税徴
収セシハ税關に背馳セシ者我領事ヨリ英法一併

壹

外務省

十二月十日

公信局

十一月廿四日接獲

明治十六年十一月二十四日公信局接獲

大正

英力堂

要類

本月三日郵船航路賀比入港貿易規則因印自今已
 一月日ヲ至ルヲ以テ右規則ニ據テ納税ノ手續ハ舊
 処双方手初ノ事ナラハ彼是面商ハ少就中貿易
 規則ニ主クノ噸税ハ之ヲ維持スル費用ニ充ルカガ
 ノ文モ有之朝鮮政府ニ於テ港内ノ修理ニ燈臺ヲ設
 ケル後ニアラハ徵收スヘキモノ非ストシ稅關ニハ今日
 直ニ徵收スルモノトス此條ニ於テハ官ニ當テ疑有之先
 頃漢山三等屬來港之即最ニ京味ニ在テ協議
 實況ニ適合タル同人ニ答ハ矢張今日ハ徵收ス事
 稅ニ申聞事モ有之依テ免南我政府ニ答リ得ル
 迄稅銀ヲ預ケ置テ事ニ取計申出又同條中初漢
 文ニハ每噸百二十五文トアリ又四十款ニ明文ニ有之
 韓錢ヲ以テ計算且納稅時事決シテ故障無之旨
 ニ英領事海關吏ニ意欲々受取ル貿易規則ハ
 每噸米其斯哥銀ニ五セントトシ洋銀ニテ計算
 且收納ス者ト相成居テ其勸ハ向合及近銀貨
 以テ假拂ニ致通且其様頼款ニ付先リ其意ニ任セ
 陸上ノ事ニ初成カ處未タ海關ニ上屋ト申者無之
 海關ハ三葉會社支店同店ニ庫ニ陸上ノ致度段可
 願出肯指圖有之同社支店人於テ彼是議論モ有
 之未得共初英領海關ト爭論ヲ起テ其將來居合
 基ト存商民ニ便利ヲ計幾分權理ヲ曲ケ本國
 文願書ニシテ差出様ハ官中論シ終ニ同店ノ庫ニ
 陸上ノ致シ倉前ニテ檢査収稅ニ上夫々荷主引取
 申出再後朝鮮政府初夜ニ改所ヲ設ケ其内ハ三葉

在朝鮮國元山港

日本領事館

倉庫ヲ海關ニシテ備受ル事ニ初談可致積年又
 本便英國人ヲイトル者有港海關長ニ被任赴
 于來港致其共朝鮮政府ハ收稅其他海關ニ
 關スル儀ハ今日迄何等ノ通知モ無之德源府代
 儀子留令ハ于モ漢統不相分唯海關ハ差出收稅
 高リ政府ニ報知スルニ于モ他一切ノ事務ハ關係無
 之杯申居其海關事務ヲ取扱洋人ハ六名ナシトモ
 格別手續有無之裁決ハ三百未滿ノ荷物ヲ檢査
 スルニ六個月ヲ費シ漸ク利取済ニ相成申其左界
 所報申申進及噸稅銀納シ儀ハ多分先方ノ問答
 ト存美得共尚為令其他ハ令モ未教示被下也

在韓元山港

明治十六年十二月十二日

領事 副田



在朝鮮國元山港

日本領事館

外務大輔吉田清成殿

十一月十九日 達

主任

卿 輔
信局長
陸

豆部

近藤

天

卷之三

在朝野國之山

領事副官 黎外務部主事

貴信乃老号今般利立以易規易施之圖之師何

あつたにふりかへ

十二月十九日記
錄局編輯課接受

外務省

[illegible]

用方尚つた道に徴税施り期限や関係ナ
キ事ト仰心付り候

口款中順税申候に要しは是解通し牙
款明文に從朝野海におりお時ノお坊より
是限貨天は是限お申しは是事より仰心付
り候

海關上迄も貿易見知三三款に從朝野
政府より是事申上は是事之間は是通し

外務省

其所、所批金を高く估りて我商人之損
害且不便不立に候なり

英西人、リイリ中者其港より長に往來候

海に朝野海より收税其地海より是事

は事通しは是事一に是事便に是事

あり後便に是事は事して是事は事

は事は事、仰心お申し諸事は事は事

なり

大田清太郎

外務省

3-0094

0093